

松浦弥太郎の

暮らして向き、

「一日に何回、ありがとうを言うか、数えたことはあるかい?」。師と仰いでいる知人がこんなふうには訊いてきた。休日のある日、夢や希望を実現させるためにはどうしたらいいか、と話し合っていたときのことだ。

「数えたことはありませんね……。うーん、でも10回くらいかなあ」

「私は一日に100回を目標にしているんだよ」

そう言うと、知人はさらに言葉を続けた。「お店をやっていたりする人は特別だけど、そうではなくて仕事や暮らしの中で一日にありがとうを100回言うのはなかなか大変なこと。だけど、ありが



「ありがとう」1日に100回

とうを100回言うことが、夢や希望を叶える最高の秘訣なんだよ」

知人は実業家として大きく成功している人だから、言葉に説得力があった。

「ありがとうを100人に言うことですよね。そんなにたくさんの人に僕は会えませんよ」

「いや違うんだ。ありがとうを言うのは人だけでなく、モノや植物、空や太陽というような、どんなものにも、ありがとうと言葉をかけるんだよ。そうすれば一日に100回言うのはむつかしくはない。いいかい、心が込められたありがとうという言葉は、言葉をかけた数だけ、言葉をかけたそれぞれが自分の夢や希望の実現を助けてくれるんだよ。わかるかい? 君もがんばれ」と知人はにっこりと微笑んだ。

えんぴつや机の上の花、窓からそよぐ風や、履いている靴、そんなモノにも、ありがとうを言う。もちろん、会った人にも、ありがとうを言う。一日にありがとうを100回。これはなかなか良い日課だと思ひ、その日から僕も続けていく。数えるのは大変だから、数えずに200回くらい言うのがコツである。

（「暮しの手帖」編集長、写真も）

(2011年11月16日 読売新聞 夕刊)

2年1組 名前